

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2004年放送分](#) > 5月29日放送分 伝統の可能性を求めて～自由な発想で博多織に挑む～

5月29日放送分 伝統の可能性を求めて～自由な発想で博多織に挑む～

29日 (TX・TVO・TSC)

30日 (TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

31日 (BSJ)

福岡県の博多といえば、日本の三大帯産地の一つ。(株)サヌイ織物(資本金1,000万円、従業員数10名)は、帯が主流である博多織において、財布やネクタイなどの小物製造に特化した会社だ。自由な発想で、様々な商品を提案してきた同社の伝統技術を生かした挑戦を紹介する。

伝統の可能性を求めて

～自由な発想で博多織に挑む～

[視聴覚教材No. TV16-9](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



こちらがサヌイ織物の讚井社長。

福岡へやってきた志垣さん。着物業界が低迷する中、博多織の技術で売上を伸ばしている会社を訪ねる。



博多織は縦糸の密度が大きいことが特



徴。縦糸が多く、折れにくい帯に仕上がるという。

作っている商品は博多織の技術を使った携帯ストラップやネクタイなどの小物類。「帯はどうしたの？」と志垣さん。



「帯は父の亡くなった昭和39年にやめてしまった。問屋から注文をもらって織るだけで、自分達の感性を表せなかったの。」と讃井社長は答える。

織機は現在14台。40年前から福岡県の融資制度を利用してきた。「時代の変化に対応でき、売上も落とさずにやってこられた。」と讃井社長。

POINT: 公的な制度を利用し、時代の変化に対応



現在の技術ではできない物でも色々な機械や物を見て改めて発想して解決し、時代



に合わせた新商品を作ってゆく。

POINT: 課題は宿題にして解決まで粘る



博多織で製作した博多新劇座の緞帳。「自分達の技術で挑戦してみたかった。」と讃井社長は話す。



従来はイタリアンシルクを使用していたコート。生地がしっかりしているので博多織を使うようになったという。

社長の奥様がオーナーをしているレストランの壁紙。これも博多織。





柔軟な発想が博多織の新たな展開を生み出していた！



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN